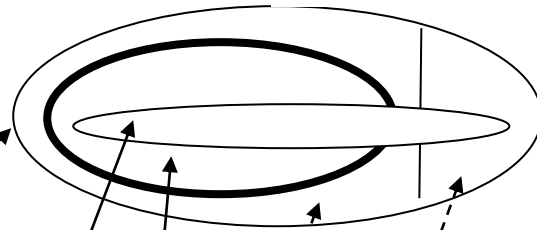


C) 第三の frontline : 世 (よ) との戦い

□ アウトライン

1. 用語「世」の意味
2. 信者と世との関係
3. 信者の義務
4. 主戦場は思考の領域

世 (よ) の意味



1. 用語「世」の意味

(1) 「世」とは、この地上の世界のこと全般を指す。この世界のどの部分を指して使うかで、3つの意味がある。

- ① 地上世界全体を指す場合・・・地上の世界は、人間が統治する今の時代はやがて終わり、メシアが全世界の王となって平和と正義の五国の時代へと移る。聖書では、その二つの時代を指して、「この世」と「次に来る世」(マタ 12 : 32) と表現する。
- ② 地上世界の中の、特に人間を指す場合・・・ヨハネ 3 : 16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」。ここでの「世」は、神が本来ご自身の似姿として造られた人を指している。罪に堕ち、神の救いを必要としているすべての人である。信者だけではない。
- ③ サタンの支配下にある「この世」のシステムを指す場合・・・①では「この世」は人間が統治する時代であると説明したが、実は、人間を背後から捕らえ、この世を罪で汚しているのは、サタンである。サタンは「この世の支配者」(ヨハネ 16 : 11) と呼ばれる。そのサタンがこの世を支配するためのシステムそのものを、「世」(ヨハ 12 : 31、Iヨハ 2 : 15、5 : 19) と呼ぶことがある。

ヨハ 12 : 31 今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。

Iヨハ 2 : 15 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。

Iヨハ 5 : 19 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。

- (2) スピリチュアル・ライフにおける「世」との戦い・・・ここでの「世」は、前述「世」の3つの意味、その内の3番目、「サタン」の支配下にあるこの世のシステムを指す。そのシステムは、次のような特徴を持っている。

- ① 人間の知恵を誇らせ、神の知恵を全く理解させないシステム。ただし、サタンがそのようなシステムを作って人間を支配することを、神は許しておられる。なぜなら、神は、ことばの知恵によらず、十字架につけられたキリストを宣べ伝えることの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたからである。(I コリ 1 : 18~29)

I コリ 1 : 21 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることはありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うこととされたのです。

- ② 人間の言い伝え、人間の戒めや教えを重んじさせ、神の真理を全く受けつけさせないシステム。このシステムを動かして人間を背後から操っているのは、サタンの配下である「もろもろの霊」、すなわち悪霊たちである。(コロ 2 : 8、20~23)

コロ 2 : 8 あのむなしいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意なさい。それは、人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。

(注) この箇所を原文の語順に沿って直訳すると、次のとおり。哲学そのものが「むなしいだましごと」というわけではない。

注意なさい、だれかの捕らわれの身にならないように、(その誰かはどのような手段で信者を捕らえようとするかと言うと)、哲学や、中身のないだましごとによって。それらは、人間の言い伝えに従っているもの、この世のもろもろの霊に従っているものであって、キリストに従っているものではありません。

- (3) このシステム自体も、将来、神のさばきの対象となる (I コリ 11 : 32)

I コリ 11 : 32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

(注) システム自体が神のさばきの対象となるというのは、私たちには理解が難しいかもしれない。ヨハ 12 : 31 には、「今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます」とあり、十字架において、このシステムが既に 1 回裁かれたことを教えている。十字架におけるさばきについては、「II. 十字架上でのさばき」において、あらためて学ぶこととする。

## 2. 信者と世との関係

- (1) 「世の中」にいるけれど、「世の者」ではない。信者は、この世のシステムに囲まれて生活しているけれど、この世のシステムに従って生きることはしない。

ヨハ 15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

- (2) 信者の立ち位置の特徴は、次のようなもの

- ① 信者は、この世のシステムの中から取り分けられて、この世のシステムとは分離されている。

ヨハ 15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

ヨハ 17:6 あなたが世から選び出して与えてくださった人たちに、わたしはあなたの御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに委ねてくださいました。そして彼らはあなたのみことばを守りました。

- ② 神がどのように信者を世から取り分けたかという点、十字架の上でなされた、神のさばきによって、である。神は、十字架の上で、「世」（この世のシステム）をさばいた。この点、詳しくは後述の、II.十字架上でのさばきにて。

ガラ 6:14 しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません。この十字架につけられて、世は私に対して死に、私も世に対して死にました。

(注) 聖書において「死」とは、分離である。「世が私に対して死に、私も世に対して死にました」とは、世と私（信者）とが分離されたという意味。

- ③ 信者は、①と②に見るとおり、世からいったん分離された者であるが、再び世に遣わされた者である。その目的は、証しをするためである。

ヨハ 17:11 「彼らは世にいます」、18 「彼らを世に遣わし」、20 「彼らのことばによってわたしを信じる人々」